

令和元年度第4回全国健康保険協会和歌山支部評議会議事録

令和元年度第4回全国健康保険協会和歌山支部評議会

開催日時：令和2年1月17日（金）14：00～15：50

開催場所：和歌山支部会議室

出席者：金川評議長、植田評議員、岡田評議員、貴冬評議員、小牧評議員、中村評議員（評議員五十音順）

令和2年1月17日に令和元年度第4回全国健康保険協会和歌山支部評議会を開催し、評議員9名中6名が出席、その概要は下記の通りです。

議題

1. 令和2年度保険料率について
2. 令和2年度事業計画案・予算案について
3. その他

議題1. 令和2年度保険料率について

事務局より資料に沿って説明。

主な意見・質問

（学識経験者）

前回の評議会で述べた意見から考えは変わっていない。（保険料率の上下動は大きくない方がよいので、現状維持は止むを得ないものとする。医療保険制度は連帯が重要で、自分が医療費を使わなくても、誰かが大きな負担をしないで済むようにあるものだと思う。）

（事業主代表）

前回の評議会で出していた意見（保険料率は引き下げる、その財源としては国庫補助の引き上げで対応すべき）と同意見である。事業主の立場からは、出来る限り保険料率は引き下げてもらいたい。

（事業主代表）

法定準備金の残高は年々増えており、令和2年度の収支見込みでは3兆9千億円に達するとある。適用拡大や健保組合の解散による加入者増加の可能性、支出における前期高齢者納付金・後期高齢者支援金の増加などの状況も重々承知しているものの、法定準備金を充てて対応できないものなのか。今回の資料ではそうした試算は示されていないが、シミュレーションではどうなっているか。

（事務局回答）

前回の評議会資料ではいくつかのパターンのシミュレーション結果を示しており、景気動向等の影響もあるのであくまで見込みではあるが、仮に賃金上昇率が0.6%とした場合、保険料率10%維持を続けていっても、2029年度を過ぎるあたりから準備金残高は法定準備金を下回るという試算が出ている。運営委員会の議事などからは、10%を超える時がいずれ来るかもしれないので、それまで10%維持を少しでも長く続けていく、というニュアンスがあるように感じられるが、和歌山支部としては、単年度収支でいえば本来は保険料を引き下げられるところ、加入者や事業主の皆様にも負担を強いることになる状況を重く考えており、将来的にも10%を超えないよう最大限努力を続けていかなければならない旨を支部長意見に反映させている。

(事業主代表)

国庫補助金が増える余地はないのか。

(事務局回答)

法律上は上限20%となっているが、現時点では16.4%の状態が続いている。国庫補助の引き上げについては、今後も国へ訴えかけてはいくが、現実的には今以上の割合への引き上げは難しい状況にある。

(被保険者代表)

保険料率については、10%維持はやむを得ないと考える。協会けんぽは被保険者の最終的な受け皿でもあるので、健保組合の解散などによる加入者増加の可能性を抱えている。また、適用拡大により被保険者の増加も見込まれる。そうした事情で情勢が変わることもあり得るため、今の試算では7~8年しか料率10%を維持出来ないようでも、逆に7~8年の猶予があると捉える事も出来るので、その間も協会けんぽには最大限努力してほしい。

インセンティブ制度も始まり、県単位で努力すべき点もあるので、我々も含め県全体で努力していかなければならない。

(事務局回答)

適用拡大については、2022年は100名以上事業所(和歌山支部では約240事業所)、2024年には50名以上事業所(和歌山支部では約570事業所)の短期雇用者を適用していくよう検討されているが、50億円程度の負担増という試算もあり、協会けんぽの財政にはマイナス影響が予定されている。

(支部長回答)

短時間労働者で元々の標準報酬月額が低い者が多く、協会けんぽにとっては、被保険者増による保険料収入増よりも、医療給付費増加による支出増の影響が大きいと見込まれている。

(被保険者代表)

保険料率維持については、情勢を踏まえるとやむを得ないと考える。しかしながら、法定準備金が増えていることから見ると、中長期的にはそうなのかもしれないが、単年度収支という医療保険の基本から見ると納得できない気持ちもある。

また、保険料率の差について、全国で最大1.15ポイントあるというのは改めて大きい開きだと感じる。和歌山支部として、少しでも低く抑えられるよう努力を続けてほしい。

(学識経験者)

事務局からの説明は理解出来る。高齢者増加を見据えて中長期的視点で保険料率を考えていくという理事長の意見も理解できるので、大枠としては保険料率維持はやむを得ないと考えるが、理論的には医療保険は短期保険であることから、今後も引き続き保険料率の引き下げに繋がるよう努力を続けてほしい。資料では運営委員の意見もほとんどは保険料率維持に理解を示したものになっているが、反対意見が少ないことは疑問に思う。

支部ごとの保険料率に開きがあることに関して、同じ企業で勤めていても勤務地で負担する保険料の差が大きいととなると、事業運営に影響したりしないものなのか。協会けんぽ発足時に都道府県支部ごとの料率が導入されたと聞かすが、個人的には今後も続けていくべきかも考える必要があるように思われる。

理事長に対して申し出する、支部長意見の内容については、修正を要する旨の発言はなし。

議題2. 令和2年度事業計画案・予算案について

事務局より資料に沿って説明。

主な意見・質問

(被保険者代表)

レセプト点検査定率について、診療報酬支払基金（以下、支払基金）との合算とあるが、割合はどうなっているか。

(事務局回答)

最新の数字では合計 0.514%で、支払基金が 0.298%、協会けんぽが 0.216%。前年同時期と比べると、0.577%で支払基金が 0.364%、協会けんぽが 0.213%で、支払基金の査定率低下が響いている。

(被保険者代表)

支払基金の低下を改善する対策はないのか。

(事務局回答)

KPI という目標もあるため、支払基金にも何度か赴いて状況を説明し、査定率向上に努力を求めてはいるが、なかなか数字に表れない現状にある。

和歌山の基金も全国的には上位 10 位以内に入っているのですが、成績が悪いというわけではないが、前年よりは下がっている。

(被保険者代表)

何か原因があるのか。

(支部長回答)

明確な原因は見当たらないため、KPI 達成に向けて、支払基金には査定率向上へ取り組むよう依頼しているところである。

(事務局回答)

査定率については、別の見方をすれば、高いほどレセプトで算定されている診療行為等に余分なものがあるということになるため、一概に査定率が高いほど良いというものでもない。KPI として目標値の設定があるため、査定率上昇を目指していかなければならないが、医療機関も指摘を受けた部分は見直しを図っていくので、極端に言うとレセプトが適正な内容ばかりになり査定は必要なくなるのが理想とも言える。

(事務局回答)

支払基金としても、医療機関へ訪問し、適正なレセプト請求を行うよう指導を進めていると聞いているので、それが影響しているところもあるのかもしれない。

(事業主代表)

インセンティブ制度の理解度調査の結果では、認知度は 8.7%とあまりに低いが、広報活動や健康保険委員を通じた加入者等の理解促進でインセンティブ制度の周知を強化していくのが重要と考える。元が低いというのは、上がる余地があるということ踏まえて集中的に取り組んでほしい。

また、先日イオンモールで開催された集団健診への協力依頼を受けたが、そういった周囲を巻き込む取り組みも積極的に行うべき。インセンティブの広報やセミナーを実施するにしても、人が多く集まる場所でやらないと効果が薄いので、そのあたりも考えて効果的な広報活動を進めてほしい。

(学識経験者)

インセンティブ制度の評価指標で和歌山支部の評価を下げている最大の要因は、ジェネリック医薬品の使用割合のようだが、それに対する取り組みは強化されているか。

(事務局回答)

先日より和歌山市内を走る路線バスでジェネリック医薬品使用促進にかかる車内アナウンスを実施している。評議員の皆さんがバスを利用する機会があれば是非聞いてみてほしい。

(被保険者代表)

紙媒体による広報活動にも力を入れているようだが、今後、二次元コードで広報媒体へ誘うような手法のような、デジタルデータによる広報活動を行うような考えはあるか。

(事務局回答)

たしかに紙媒体で文字数や情報量が多かったりすると、興味を引くことが出来ずに終わることも多い。まずは入り口として興味を持ってもらえるような手法を取っていくように考えている。

また、スマホの位置情報を活用した広報も実施していくなど、幅広い広報を進めるようにしている。

(学識経験者)

メルマガについては、スタート当初より見ているが、内容がマンネリ化しているように思うので、刺激を与えるような内容も検討してもらいたい。

(学識経験者)

インセンティブレポートはなかなか面白い。これを見たら、事業所も取り組みをやらないといけないと考えるきっかけになるのではないかと。ただ、その時にどう取り組んだら良いかを示した部分が弱いようにも思われるので、そのあたりは検討の余地があるかもしれない。

(支部長発言)

周知に向けての広報は色々行ってきたが、インセンティブ制度の認知度はまだまだ低いため、インセンティブレポートのように事業所にとって分かりやすい素材を活用して今後の広報を進めていきたい。

議題3. その他

2月14日に大阪で開催される近畿ブロック評議会への和歌山支部からの参加者を報告する。

また、今年度の評議会は今回が最終となる旨、連絡を行う。

評 議 長 _____

議事録署名人 _____